

令和7年度自己評価表

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）		カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）			
○ものづくりの実践を通して、知識や技術を身に付けさせ、地域や産業界で活躍できる力を育成します。 ○先端技術や時代の変化に対応するための工業各分野の専門的職業人に必要な資質や能力を育成します。 ○自ら考える力を育み、ものごとに主体的に取り組み、行動・表現できる資質や能力を育成します。 ○規範意識を身に付け、豊かな人間性を備えた職業人として必要な姿勢・態度を育成します。 ○コミュニケーション能力を磨き、思いやりの心、他者と協働できる力を育成します。		○地域産業界や大学等と連携した実践的な技術教育を行います。 ○ICTなど先端機器を活用し、新しいことにも柔軟に対応できる教育を行います。 ○主体的・対話的で深い学びを取り入れた教育を行います。 ○勤労観や職業観を育て、生徒の多様な進路希望に対応する教育を行います。 ○資格取得をサポートし、専門的な知識や技術の定着を図る教育を行います。 ○学校行事や生徒会活動、部活動やボランティア活動を積極的にを行います。			
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
グラデュエーション・ポリシー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上	C	「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教職員対象のアンケートに対して、68%が「十分に成長している」「成長している」という肯定的な評価をしているが、29%が「どちらともいえない」、3%が「あまり成長していない」という否定的な評価をしている。	地元企業と連携・協働した実践的な工業教育の推進、確かな学力の定着と伸長などにより、グラデュエーション・ポリシーに沿った生徒の成長を促す。
工業教育	みらいの学び地域産業人材育成事業の充実	インターンシップやデュアルシステム、マッチングフェアの充実と、みらいの学び地域産業人材育成事業を活用した地域産業界との更なる連携・協働を図る。	A	地域の産業界・地元企業と連携・協働を深め、インターンシップやマッチングフェア、デュアルシステムなどを通じて、地域産業の魅力を生徒に理解させる工業教育を推進した。昨年度に引き続き、日本青年会議所、今治市、今治市商工会議所、今治地域造船技術センター、今治電気工事協同組合、今治タオル工業組合、今治市管工事業協同組合との連携を発展させた。	地域の産業界・地元企業との絆をさらに強固にして、みらいの学び地域産業人材育成事業やソーシャルチャレンジfor High School事業「地域の課題解決プロジェクト」を通じて、「ものづくり」を課題の解決手段として取り組むことのできる次代の地域産業を支える「ものづくり」人材の育成を図る。
	ものづくり教育の推進	各種コンテスト・ものづくり大会に積極的に参加し、外部支援団体・企業との連携を図り、生徒・教員のものづくりに関する技術・技能の向上に努める。各種コンテスト・ものづくり競技大会全国大会へ1部門以上の出場を目指す。	A	地元の熟練技術者の指導・協力により、溶接・電気工事・化学分析の分野で四国大会上位の成績を収めた。全国規模の大会・コンテストでは、第9回全国選抜高校生溶接技術競技会in新居浜「炭酸ガスアーク溶接部門」で最優秀賞、令和8年度愛鳥週間用ポスター原画コンクールで文部科学大臣賞に輝いた。高校生ロボット相撲大会2025全国大会ではベスト16の成績を収めた。	今年度に倣い、地元の熟練技術者との交流を深め、生徒・教員のものづくりに関する技術・技能の習得に努め、工業教育に関する各種競技会・コンテストの全国大会へ2部門以上の出場を目指す。デジタル人材育背の観点から地元情報関連企業との連携・協働を模索する。
		ものづくり企業と積極的に連携を図り、匠の技教室と匠の技PROの実施による生徒・教員のスキルアップとものづくり企業との絆の構築に努める。	A	地域の産業界・地元企業と連携・協働した匠の技教室や企業見学、インターンシップ、デュアルシステムを積極的に実施し、最新の技術や卓越した技能に触れ、生徒の技術・技能の向上と地元企業の魅力再発見につながった。各工業科の教員がそれぞれの専門分野で、企業・大学・専門機関と連携を図り、ものづくり教育の充実を図るために匠の技PROを実施した。電気科では電気工事の分野で日本屈指の技術を有する中部地方の企業で「電気工事作業」の実技講習を若手教員が受講予定した。	今年度に倣い、地域の産業界・地元企業と連携・協働した匠の技教室や企業見学、インターンシップ、デュアルシステム、匠の技PROの充実を図り、地域産業の魅力に触れる機会を増やす。マッチング推進アドバイザーを有効に活用し、地域の産業界・地元企業の振興・発展につながる工業教育を実践する。
	資格・検定取得の奨励	各種の検定試験等に積極的に挑戦させるために、授業や放課後の資格取得における指導体制の充実を図る。ジュニアマイスター顕彰ゴールド3名、シルバー7名輩出を目標とする。	B	各工業科の特色に応じた資格・検定試験に対する取組が実践され成果を上げた。ジュニアマイスター顕彰ゴールドが3名、シルバー5名を輩出し、ゴールド認定者の内1名がジュニアマイスター顕彰制度特別表彰を受賞した。デジタル人材育成にも力を注ぎ、基本情報処理技術者試験1名、ITパスポート4名の合格者を輩出した。	各種資格・検定取得に取り組む環境を最大限に生かし、生徒の資格・検定取得に対するマインドを醸成し、卒業までに取得する資格・検定保有数一人当たり5個、ジュニアマイスター顕彰ゴールド取得者3名、シルバー取得者7名以上を目標に定め、資格・検定取得を推進する。
学習指導	基礎的・基本的な学力の定着	到達度テスト(スタディサプリ)を用い、基礎学力の定着向上、学習習慣の確立を目指す。①テスト平均到達度50%以上 ②家庭学習時間40分以上 (A:60%以上 B:55%以上 C:50%以上 D:40%以上 E:40%未満)	C	①テスト平均到達度【1年生】49.1%→40.7%→41.3%【2年生】52.1%→41.1%→43.1%【3年生】38.7%→42.2% 目標未達(C) ②家庭学習時間【1年生】42分→27分→43分【2年生】29分→27分→41分【3年生】19分→29分 目標未達(C)	2年間の調査により本校生徒の学習状況の傾向が分かってきた。学習時間は徐々に減少傾向にあるが、年度初め(新学年)に上昇する傾向がある。春休み課題の設定を工夫し学習に取り組む時間(習慣)の定着を目指す。また、達成テストの結果に応じた運動課題配信を活用し、個別最適な学習を展開する。
	教科指導の充実	校内外の各種研修会に主体的に参加し、教員の実践的な指導力の向上を図る。	B	今年度は本校で学校訪問研修が実施されたため、各教科において授業研究を充実させることができた。校内研究授業も計画的に実施し、授業研究会も充実した。他校の学校訪問や高教研大会にも各教科から参加することができた。	校内研究授業のテーマを全体で共有できるよう通知し、他教科も含めて授業改善に向けた研修を実施できるように工夫する。校外の研修会にも参加しやすいよう内容を厳選し、適切な情報提供に努める。
		生徒による授業評価アンケートで好評価(「はい」、「どちらかといえばはい」)98%以上	C	全授業【3年生中心(1.23現在)】の授業評価アンケートで、好評価(「はい」、「どちらかといえばはい」)97.3% 目標未達(C)だが評価としては高い。	教員個々に振り返ることよりも教科としての取組を見直し、学校としての授業力向上を目指す。学校訪問研修を通して各教員が取り組んできたものをブラッシュアップさせるとともに、共有できる機会を設ける。
	図書室及び図書利用の促進	図書室利用の啓発に努め、読書会や集団読書の充実を図る。生徒一人当たり年間貸出冊数3冊以上 (A:3冊以上 B:2冊以上 C:1.5冊以上 D:1冊以上 E:1冊未満)	C	年間貸出冊数は一人当たり昨年度1.7冊から若干増加したが1.92冊であった。学年別では、1年生の貸出が約6割を占め3年生の貸出が極端に少なくなっている。昼休みに閲覧室で少しづつ読書する生徒が多い。	新着本の通知を生徒の端末で配信するなどの工夫をする。読書週間の呼びかけや、学級文庫や読書会など委員会活動を充実させる。キャリア教育関係や工業科専門の図書を増やし3年生の利用促進を図る。
特別活動	生徒会活動の充実	生徒会活動(運動会・文化祭・クラスマッチ等)への積極的な企画運営を目指す。また広報活動等、地域発信をする。	A	生徒会役員を中心に主体的に取り組むことができた。運動会では新種目の企画・準備をはじめ、おおいに熱心に活動ができた。	企画、運営をさらに生徒会中心の活動にしていきたい。
	部活動の活性化	部活動加入率90%以上(A:70%以上 B:69～60% C:59～50% D:49～40% E:40%未満)とし、県総体110名以上、四国総体4競技以上を目指す。	A	部活動加入率は95%以上、体育部では県総体131名、四国4種目、全国総体1種目が出場した。文化、生産部では各種全国大会に出場した。部活動全体で、全国1位を含む9名の全国入賞を果たした。	部活動における環境整備等、特に熱中症対策を整えていきたい。
	ボランティア活動の推進	ボランティア、奉仕的活動への自主的・積極的な参加を促し、奉仕の心の育成を図る。	B	せとうちみなとマルシェ、福祉協議会のボランティア、今工祭での募金活動等、積極的に参加し、おおいに取り組むことができた。	ボランティア精神を育む一環として、環境整備等、行事ごとに意識させて取り組ませたい。
生徒指導	問題行動の防止	生徒理解に努め、問題行動を未然に防止する。特別指導生徒数10人以内(A:10人以内 B:11～15人 C:16～20人 D:21～25人 E:26人以上)	A	特別指導件数10件(R6年度14件)で指導した生徒数は7人であった。本年度は再発件数2件であり、減少傾向にある。ただし、今後も注意深く生徒を観察する必要がある。	生徒間暴力、SNSに関するトラブルを未然防止したい。警察署に依頼をして非行防止教室を実施する。また、保護者に対して、理解や協力、危機管理意識を持ってもらうように情報発信したい。
	安全教育の推進	交通安全及び「命を守る」意識の高揚を図る。通学時の事故件数5件以内(A:5件以内 B:10件以内 C:15件以内 D:20件以内 E:21件以上)	B	通学時の事故件数は6件(令和6年度10件)。登校時5件である。病院搬送された大きな事故はなし。	事故は登校時に発生している。始業開始5分前までには教室に入る指導を徹底し、事故防止に繋げたい。また、お互いゆずり合いができないので、事故に繋がるケースも多い。
	基本的生活習慣の確立	生徒の規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立を図る。服装指導、合格率90%以上(A:90%以上 B:80～89% C:70～79% D:60～69% E:59%以下)	C	頭髮服装指導の合格率73%(令和6年度70%)。例年並みの成果であった。	遅刻者数が一日平均0.9人(令和6年度0.9人)。これについては、学校活動の意欲向上を図りたい。身だしなみに対しては大きな乱れはない。また、生徒が主体的に身だしなみを整える雰囲気を作ることが、改善策として期待できる。
教育相談	充実した学校生活の支援	ホームルーム担任や養護教諭、スクールカウンセラー、専門機関との連携を密にし生徒の悩みの克服を支援する。	C	学校内の情報交換や専門機関との連携は、まずまずできたが、生徒の多様な悩みやトラブルへの対応は、不十分なものとなった。	生徒が気軽に教育相談室を利用できるように、啓発活動に力を入れていきたい。担任だけでなく多くの先生方と連携するように心がけたい。
		特別な配慮を要する生徒の実態把握に努め、学校生活を支援する。いじめ対策委員会の積極的活用を目指す。	C	特別な配慮を要する生徒の実態把握には努めたが、学校生活への支援は、不十分なものとなった。	生徒への支援は、SCやSSWの活用だけでなく、様々な機関(医療機関・行政機関)との連携を密にしていきたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
人権・ 同和 教育	現職教育の充実	生徒の進路実現に向け、進路保障のための適切な指導を行い、部落差別の解消における教師の果たすべき役割の自覚を深め、すべての教育活動を通じて人権・同和教育を推進する集団作りを目指す。	B	年間を通して県内で行われる様々な研修会への参加を促し、教員として必要な知識や考え方を学ぶ機会を設けた。校内では6月に教職員研修を実施し、障がいのある方へのサポートについて理解を深めることができた。また各学期のホームルーム活動前には学年会を開き、資料や指導案について共通理解を図ることができた。	教員が自らの人権感覚を磨き、知識を更新できるよう研修内容を工夫したい。そして、共通理解のもと人権・同和教育に取り組めるよう、研修で得た知識を教員間で共有できるような機会を設けたい。
	望ましい集団活動の推進	人権委員自らが、確かな知識に裏付けられた考え方や態度を培い、人権委員会で学んだことを生徒全体にフィードバックする。そして、「部落差別の解消に関する法律」が施行された意義を生徒全員が理解できる啓発活動を行う。	B	人権委員会の活動で習得したことを人権集会や人権だより『なかま』を通して全校生徒や保護者に還元することができた。特に人権集会では、人権委員が問題提起することで、生徒たちはその人権課題を自分事として捉えることができた。	人権委員会の活動を中心に、生徒や保護者への啓発活動を継続して行っていきたい。他人事ではなく自分事として主体的に人権・同和教育に取り組める集団をつくるために、人権委員会の活動の輪を広げ、より多くの人を巻き込んで活動できるよう工夫していきたい。
進路 指導	進路意識の高揚	他課や外部との交流を深め、生徒の勤労観や職業観を育成する。「キャリア・パスポート」、進路希望調査、進路相談等を通して、より具体的に進路に対する意識を高めさせる。	A	進路相談を積極的に実施することができた。また、著名な写真家に講演を依頼することで生徒たちに夢と希望を与え、そして人生観を学ばせることができた。こういう機会が結果的にキャリア教育の刺激になった。	実際に体験させたりすることが大切であると考え、インプット(体験等)とアウトプット(発表等)を組み合わせた活動を重要視していきたい。また、機会があれば講演会も継続して開催する予定である。
	就職・進学指導の充実	生徒一人一人の適性や能力の把握に努め、キャリア教育の充実を図る。学校紹介による就職内定率100%、進路希望達成率100% (A:100% B:99～95% C:94～90% D:89～85% E:85%未満)を目指す。	A	学校紹介による就職内定率は100%であり、11月上旬には決定している。進路希望達成率も100%を達成することができた。	単に進路が決定すればよいというものではなく、生徒本人がやりがいをもって続けられる仕事に就けることや、進学の場合も将来の希望している職業に合わせた進学先選択が大切であるため、引き続き、職業観の育成に努めたい。
情報 管理	校務のデジタル化と教育のデジタル化	教育業務の効率化に資する校務のデジタル化を推進する。教育のデジタル化を推進して、個別最適化教育を促進する。	D	生成AIを用いた業務の改善はまだ進んでいない。EILSおよびEILS－PBTの普及が十分ではない。ポートフォリオの考え方が普及していない。個別教育の環境は整えているがほとんど活用されていない。タブレットを自己管理していない、利用していない状況が多々見受けられる。	生成AIを積極的に活用することで、利点と欠点を把握し業務に活かす。同時に生徒に指導できるレベルに到達する。ポートフォリオをデジタル化し、主体的に学習する態度を促す。授業担当教員は、タブレットを積極的に活用し、学校に放置することのないように指導、活用を徹底する。
	セキュリティ及びデータ管理の徹底	データ管理のシステムを整え、データの流れを見直し、安全に運用管理する。	C	分類3および4のデータは、校務系で管理されている。USBメモリは教務が管理している。データサーバ室は鍵で管理している。端末から離れたときに個人認証されたままになっている。	端末から離れるときは、スリープもしくはシャットダウンすること。端末は、ワイヤーもしくは、引き出しで管理すること。データの重要性分類を行い、データの保存は適切なドライブに行うこと。
保健 厚生	健康管理能力の育成	保健委員会活動を通して、心身の健康管理に対する学びを深め、自己の健康管理ができる生徒の育成を目指す。	B	睡眠習慣に関するアンケート調査と知識理解調査を行い、実態把握に努めた。保健委員が睡眠ダイアリーを配布し、睡眠習慣の振り返りを促した。	アンケート結果から少しずつ意識し取り組んでいる生徒たちが見られるものの、まだ改善が必要なため、引き続き本テーマに取り組みたい。
	防災意識の高揚	防災学習、避難訓練等の内容を見直し、防災意識の高揚に努めるとともに、施設面でも安全点検を徹底して、危機管理を行う。	C	非常変災避難訓練、シェイクアウト訓練など、年度当初の計画通り実施することができ、生徒の防災意識を高めることができた。	非常変災訓練の発生条件などをより実践的なものに変更したり、外部団体と協力しての実施など、検討を進めていきたい。
渉外 広報	PTA活動の活性化	生徒数の減少とともに保護者の数も減っているが、学校行事やPTA活動を現在の活気あるものを今後も維持していく。	B	PTA総会、今工祭バザー、理事会・役員会以外に球技大会や研修旅行などのPTA行事を実施することができた。特にPTA総会は祝日に実施したので、授業参観と合わせて28%が参加した。	様々なPTA活動をPTA会長を中心として実施できたが、参加する保護者が減少傾向にあるなかで今後の活動を維持できるようにしていきたい。
	きめ細かな情報提供	学校新聞や毎月のPTA通信の内容が形骸化しないよう、魅力のある記事の掲載に努める。	B	PTA通信(月1回)・今工新聞(年2回)は、生徒の活動、部活動での活躍を取り入れて、発行することができた。PTA通信はスタディサプリで配信することで、保護者は77%を超える閲覧状況である。	毎月のPTA通信はホームページに掲載しつつ、スタディサプリでの保護者への配信を中心に、様々な形での情報提供を継続していきたい。
		体験入学や出前講座、ものづくり教室など、さまざまな活動を通して本校の魅力を外部に発信し、入学志願者数増加へつなげる。ホームページや公式instagramやYouTubeを積極的に活用し、本校の魅力を発信する。年間60回以上の投稿を目標とする。	A	「一日体験入学」には中学生286名、保護者・中学校教員78名が参加、「オープンスクール」には中学生37名、保護者11名が参加、中学生とその保護者に本校生が本校の魅力を直接伝える機会を設けた。「今工夏休みおもしろ講座」では小学5・6年生35名が、各工業科が用意したもののづくり体験を通じてものづくりの楽しさや魅力に触れる機会を設けた。ホームページの更新頻度を上げるとともに、公式YouTube、公式Instagramを活用した情報発信を年間100回近く実施、リアルタイムに魅力発信を行った。	魅力的なホームページの開設を心掛け、公式YouTube、公式Instagramを有効活用し、本校生の活躍、本校の魅力を外部に発信する。各種メディアに計画的に取材依頼を実施して、本校の魅力を広く報道してもらえるよう努めたい。
学校 事務	人事管理の適正化	人事、給与、手当等の適正な支給と認定を行う。	A	正確で迅速な事務処理ができた。	引き続きダブルチェックを行い、正確な事務処理に努める。
		心身の健康管理と事故防止を図る。	C	ストレスチェック集団分析結果は概ね良好であった。衛生委員会等の機会を通じて教職員健康管理医と連携し、教職員の健康の保持と増進に関する情報の収集と必要な指導に努めた。	風通しのよい職場づくりに、引き続き全校体制で取り組む。教職員の心身の健康を第一とし、特に面接指導の事後措置に係る意見書に基づく業務負担の軽減や働き方改革と業務改善を積極的に推進する。
		危機管理意識の高揚に努める。	C	不祥事や公務災害はなく、教職員が危機管理意識を高く持って職務に取り組んでいる。職員会議や職員朝礼で管理職による研修の実施と情報提供に適宜努めた。	会計の不適正処理や諸手当の不適正受給が生じないよう、また不祥事や公務災害等が発生しないよう、研修等を通じた働きかけや不断の相互確認体制の改善を継続する。
	経理事務の厳正化と効果的な執行	各会計の計画的な予算執行と迅速かつ適正な事務処理を行う。	B	県費及び私費会計ともに、教職員からの要望を聴取し、計画的かつ適正な執行に努めた。	今後も計画的かつ適正な予算執行に努める。
		経費節減に努める。	B	教職員へ節電や経費節減に努めるよう周知した。	過不足がないよう適切な予算管理に努めるとともに、費用対効果を考えながら無駄をなくす。
	文書管理の適正化	迅速な収受と適切な保存を行う。	A	校務系メッセージ及び掲示板を有効に活用し、迅速かつ適切な処理に努めた。	今後も引き続き迅速かつ適切な処理に努める。
		個人情報の厳正な管理を行う。	A	管理規程に則り、教職員及び生徒情報について適切な管理に努めた。	今後も引き続き適切に管理を行う。
	施設・備品の適切管理	学校内外の潜在危険個所の除去と事故防止を図る。	B	日頃から教職員との連絡を密に行い、危険個所の把握に努め対応している。また、昨年度から懸念されていた体育館消防設備修繕を施工、完了することができた。	今後も管理厚生課より提出される安全点検や教職員からの情報収集により危険個所等の把握に努める。
		生徒の学習・生活の場としての教育環境の整備と充実に努める。	B	学校訪問に向けて、劣化の激しいVHR教室カーテンの取替えやHR教室等の吊り下げ式のスクリーン撤去を行い、教室環境の改善ができた。	予算に限りはあるが、引き続き教育環境の整備に努める。
教職員	ICTの活用による業務の負担軽減	グループウェアを有効活用することにより、文書処理や会議等の時間の短縮を図り、教育業務の効率化を図る。	C	趣旨の共通理解が進み、グループウェアの活用による情報共有の効率化の効果が現れている。職員会議や職員朝礼などは時間短縮につながっている。	ICT機器の効果的な活用方法についてさらなる研究と普及に努め、教職員の業務の負担軽減を図っていきたい。
	効率的・効果的な活動の推進	計画的な活動によって休養日を確保したり、環境条件に配慮した活動によって安全を確保したりして、担当者の心身の負担を軽減する。また、教職員への個別の声掛けも実施する。	C	休養日確保の意義や大切さを周知することで、計画的な休養日の確保が進んでいる。	休養日確保の意義や大切さを周知徹底することで、ワークライフバランスを実現し、効果的な活動の推進を図る。毎月在校時間が80時間を超える教職員もいるので、個々の事情に寄り添いながら、軽減を図りたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。